

第2回 渋谷区スポーツ推進計画策定委員会 議事要旨

【日 時】

2017年（平成29年）8月7日（月）18時30分～19時57分

【会 場】

区役所仮庁舎第2庁舎1階保健所講堂

【出席者】

- 1 委員＝15名
- 2 事務局＝3名

【会議次第】

- 1 委員長あいさつ
- 2 議題
 - (1) 策定委員アイデアシートについて
※各自のアイデアについて5分以内で発表
 - (2) 今後の進め方について

【配付資料】

- 資料1 策定委員アイデアシート
資料2 策定スケジュール

【議事概要】

議 題

（1）策定委員アイデアシートについて

委員長 議題の（1）策定委員アイデアシートについて、各自のアイデアを5分以内で発表頂きたいと思います。

委員 スポーツの底辺を拡大するような、あるいはパラリンピアンを支援するような施策も必要ですが、オリンピックを機に象徴的なもの、また、渋谷はこのように変わったとわかるようなイベントをつくるのがよいのではないのでしょうか。私は2つの提案を考えています。

スリー・バイ・スリーという3人制のバスケットボールが今回のオリンピック種目になりましたが、これは学校体育とは全く別なものからスタートしています。かつて路上や駐車場で3人対3人で行うスリー・オン・スリーというバスケットボールがありました。バスケットボールのゴールさえあればみんなで楽しめ、しかも極めてルールがわかりやすいので路上から世界に広がりました。それをルール化したのが、スリー・バイ・スリーです。学校体育を基盤とするこれまでの日本のスポーツの土壌とは全く違ったと

ころから発達してきたスポーツがオリンピックの種目になるわけです。

このような路上で行うスポーツ、特に若者に人気があるスポーツは、若者のまち渋谷によく似合います。渋谷の至るところにスペースを設け、あるいは、設けていなくても準備しようと思えば2・3時間でできます。常に渋谷の至るところにスペースをつくっておき、渋谷区の子供たちでスリー・バイ・スリーのチームをつくって、毎年1回、大トーナメントを行います。まちの中でチャンピオンを決めるイベントを行うわけです。まさに渋谷区自身がスリー・バイ・スリーのコートとなり、面白いと思います。しかも外から来た若者や外国から来た若者がいつでも参加できるような環境を渋谷区のまちの至るところにつくるというのはスポーツの底辺を広げる上でも効果が大きいと思われる。毎年その時期が近づいてくると、渋谷の子供たちはそわそわしながらスリー・バイ・スリーにいそしむ。そしてそれを親が応援する、あるいは親たちのチームも競うようなことをやればおもしろいと思います。

もう一つは相撲です。相撲は今、世界的に広がっています。相撲は、極めてルールが簡単で場所が要らず、またお金もかからないので、万国共通の理解を得られる土壤があると思います。日本では、太古の歴史から至るところで相撲が行われてきています。相撲の神事あるいは大会は、例えば疫病が治ったこと、大災害からの復活、大火事から復活等を祈念して日本各地で起こり、何百年も続く歴史となっています。ただし、残念なことに各地域限定で行われています。それをオリンピックを機に渋谷で集まって行うのです。渋谷には横綱の免許を出す明治神宮があります。世界的に見ると大相撲の聖地は両国と渋谷であり、そう考えると、渋谷でやる意味があります。オリンピックを機に渋谷で世界一を決める相撲のトーナメントを始め、年に1回のお祭りとして渋谷の皆さんが集まって間近で見ます。世界からもすごい人たちが集まり、それを世界に発信していくイベントとします。理想はウィンブルドンです。ウィンブルドンの季節が近づいてくると、ロンドンの人たちはみんなそわそわし、世界も注目します。市民は世界一決戦を間近で見て、子供たちは近辺のコートでテニスを楽しみます。そのような雰囲気、渋谷区では相撲でつくり出すのです。2020年から始め、50年後、100年後には、夏が来れば渋谷というイベントをつくっていくのがよいのではないかという提案です。

委員

私は、パラリンピックに出る現役選手として障害者スポーツの観点から幾つか提案させていただきます。

まず、健常者と障害者の一体型スポーツ教室を提案させていただきます。今のスポーツ教室は、健常者と障害者とが分かれています。健常者と障害者が体験教室等のイベントを一緒にできたらよいと思います。例えば、健常者アスリート、例えばオリンピックや障害者アスリート、パラリンピアンを招聘し、一緒に子供たちと体験するとよいと思います。私は、港区の小学校でオリンピックの選手と一緒に体験教室を行いました。小学校の子供たちは、オリンピックばかりに興味があると思っていたのですが、意外にもパラリンピックにも関心を持ってくれました。私はトライアスロンやっており、特殊な器材を使って競技をするので、それに興味を持ってくれました。そこから子供たちのパラリンピック競技への興味も湧いたのだと思います。

2番目です。パラリンピックとは関係ありませんが、早朝の開館前の公共スポーツ施設の開放をできたらよいと思います。全国クラスのトップ選手は自分のクラブがあり、スポーツ環境が整っていますが、トップクラス以外のクラスの選手は、競技の練習場所がない状況だと思います。そこで、スポーツセンターを有効に使う早朝の時間帯に開放するのは、対象として全国・関東クラスという絞り方が正しいかわからないですが、トップクラス以外を対象に開放できたらよいのではないかと思います。

3番目です。スポーツ施設の開館時間にアスリート専用利用開放ができないかと思っています。これにより、全国クラスの選手の練習を間近で見て頂く環境ができると思います。渋谷区は場所を開放するので、練習後に体験教室やワンポイント指導などの企画をお願いできるのではないかと思います。それにより、渋谷区にアスリートのデータが

たまっていくと思うので、それを活用して体験教室やワンポイント指導などで学校に派遣することが考えられます。そうすれば、派遣によるデータも増えていくと思います。

4つ目は、障害者スポーツプログラムのボランティアも一緒に楽しむプログラムです。仙台にアスリートウォークというイベントがあります。これはオリンピックやパラリンピックに出た選手と一般の参加者が一緒に歩くだけのイベントで、私もゲストとして行きました。一般の方が、オリンピックやパラリンピックと交流できるということで一般の方が楽しんでいました。障害者も参加していました。一緒にお互いをサポートしながら楽しむ一般のイベントに昇華できればよいと思います。

最後は、渋谷区のパラカテゴリーの増設です。渋谷区にはいろいろな大会があると思いますので、パラカテゴリーをつくれないうと思っています。ハードルは高いと思いますが、渋谷区の一般の大会と障害者の大会を一緒にするような同時開催ができれば、相互理解にも役立つのではないかと思います。どのように行うかはこれから検討していく必要があると思います。

また、学校の部活動、例えば特別支援学校と普通学校の部活動で活動を共有できたらおもしろいと思います。

委員

2つの案を出させて頂きました。専門がデザインなので、デザインを利用してスポーツに寄与できないかという案です。

その1つが、Active by Designです。これはデザインによって、いろいろな公共空間で市民が楽しく運動できる機会をふやすという案です。例えば、街路に描かれたグラフィック、わくわくするようなデザインを街なかにかくさんつくって、思わず体を動かしたくなるようなことを提案するというのを考えています。

もともとActive by Designはイギリスの政策です。肥満を減らすために、公共空間、広場等で手軽に体を動かしてもらおうとして始まった取組です。長く歩くことはよくないと言われていましたが、実は体によいとわかり、長く歩くことを楽しめるようにどうすればよいかという議論が起きました。そのためにはデザインが必要だという結論に至りました。多くの事例があります。

これを日本で考えた場合、分かりやすいのが「けんけんぱ」です。地面に簡単な図が描いてあり、それによって体が勝手に動くというようなものです。これが発展した事例は実際にたくさんあります。地面に目盛りを打って歩くのを助長したり、グラフィック3Dアートを映して、そこを飛び越えてみたくするようにしたり、急にわくわくするようなものを出現させてできないか、あるいは、広い場所があれば輪をいっぱい描いて子供たちが歩き回れるように促すなど、デザインによって急に体を動かしたくなるようにできないかと思っています。

階段を上るのは大変ですが、階段に鍵盤を描いて楽しく上がれるようにしたり、壁に五線紙が現れ、それに合わせて体を動かしたくなるような仕掛けができればよいと思います。

ローザンヌにあるオリンピックのミュージアムには、アスリートが使う大ジャンプの世界記録の映像があり、ここに来るとみんなこの写真のようにやります。そのような仕掛けをつくってみてはどうかと思いました。

私はオフィス空間のデザインをすることも多いのですが、実際にそのようなデザインが増えており、流行っています。また、今、移動空間を楽しむ、あるいは移動で運動をしようということが考えられており、ランニングコース等もできています。それに加えて、デザインで体が動かしたくなるような仕掛けを公共空間あるいは企業等の半公共空間のような場でやったらどうかというのが1つ目の提案です。

もう一つは、テクノロジーを使ったスポーツ観戦と運動です。今、VR、ARを使ってスポーツを見たり、やったりするような変化があります。それによって、公共空間がスポーツを見る場あるいはやる場が変わっていくのではないかと思っています。いろい

るな技術があり、日進月歩でいろいろな可能性があると思っています。

これによってオリンピックのパブリックビューイングが変わるのではないかと考えています。皆さんが想像するパブリックビューイングは、非常に大きなイベントを大きい空間で大勢で見るといふものだと思います。これに対して、小さな空間で少人数でパブリックビューイングができるというふうに変わっていくことも考えられます。昭和の時代に小さなテレビを近所・群集が集まって見ていたのがパブリックビューイングの原点だとすると原点に戻るといふことです。しかも、それを新しいテクノロジーでやれば、新しいパブリックビューイングのやり方を渋谷から世界へ発信できる。そのようなことができたらいいと思っています。渋谷区はIT関係の方が非常に多いので、人材がたくさんいます。その方々の知見を活かしながら新しいスポーツを見る、やるということができたらいいと思いました。

委員

私は、走るという観点から幾つか提案させて頂きたいと思っています。

今、リレーマラソンが非常にはやっています。42.195キロをリレーで走ります。大体10人で1チームとして、各地で開催されています。最近、校内のマラソン大会などが少なくなってきたことも背景となっています。子供たちの体力が低下していることもあり、例えば1人2キロとして20人で1チーム、もしくは1人1キロとして42人のクラス対抗というやり方もあります。いずれの場合も3時間から4時間程度で終了します。リレーマラソンを行うことによって子どもたちの体力増進につながるほか、子どもたちの助け合い等が生まれてくるのではないかと考えて提案させて頂きました。

続いて、代々木公園での競技用車椅子の体験です。競技用の車椅子は、なかなか体験することができないので、代々木公園にふらっと行った時に、時間貸しで体験できるというふうなことができるとういと思いました。それにより車椅子競技スポーツの底辺も広がっていくのではないかなと思います。

次は、いつでも手軽に安全・安心にウォーキングという提案です。遊歩道設置は非常に難しいかもしれませんが、楽しみながら歩くということが大事だと思います。渋谷区には代々木公園がありますが、夕方は暗くて思い切り走ることができません。渋谷区の方々が仕事を終えた後に、思い切り走りたいと思っているとしても、そのような場所がないのが実情です。24時間、代々木公園で安全に安心に、そして楽しく走れるようになれば、もっと手軽に体力増進が図れると思います。台風や暑い季節、冬の寒い季節には箱物がすごく大事だと思いますが、先ほど委員がおっしゃっていたように、時間的な制約があるので、遊歩道などのように何時に行っても手軽に運動できる場があるとよいのではないかと考えています。

次は、地区体育会のリニューアルです。玉入れ等のように皆さんが楽しくスポーツをするのはよいと思いますが、それに加えて50メートル走や100メートル走等で記録の計測をして頂くことも大事だと思います。記録をとれば来年の励みになって、またその日に向かって楽しんで体づくりができるのではないかと考えています。

委員長

幾つか提案をさせて頂きました。最近、渋谷区内にスタジアムをつくらうということが新聞に出ていました。1点目はこれに関してですが、スタジアムをつくる際には複合化、多機能化して、スポーツ以外のことも楽しめる、にぎわう場所にしたらどうかという提案です。

また、ITビジネスもそうですが、スポーツビジネスのシリコンバレーのようなところをつくっていかうということで、スポーツビジネスシンクタンク、そしてスポーツビジネス人材の養成のようなことを渋谷区内でできたらいいのではないかと考えています。

先ほどの委員の話のように、アクティブバイデザインとテクノロジーを組み合わせるようなアプリがあればよいのではないかと考えています。

全く新しいスポーツを渋谷でつくっていく。玉入れも、TAMAIREとローマ字で書いたら多分違うイメージでできるのではないかと、まさに小学校でそのようなことがあ

ったら楽しいかと思いました。

廃校が出てきたら、それを積極的にスポーツに活用してはどうかと考えました。また学校の部活動が、教員の引き受け手がいなくて困っているのも、地域が引き取ったり、法人化していくようなことを考えてはどうかと思います。

行動変容ステージモデルについては、スポーツに無関心な人、関心がある人、始めた人、継続している人で、それぞれスポーツに対するステージが異なるため、そのステージを考えていくことが大事だということを示した提案です。性別や年齢だけではなく、どのステージにいるのか、ステージ別に政策をつくったらよいのではないかという提案です。

東京オリンピック・パラリンピックでは、多分史上最高の選手団が結成されます。そうすると、その人たちが引退した後はどうするかもしっかり考えないといけないので、セカンドキャリア・デュアルキャリアについて提案しました。

それから、女性スポーツです。女性がもっとスポーツをしやすいような環境が大切です。

次はリバース・インテグレーションです。インテグレーションは統合という意味ですが、その逆のことです。普通は、健常者に障害者を統合する発想ですが、その逆で、障害者に健常者を統合していくという発想です。車椅子バスケットボールやブラインドサッカーを普通の競技としてみんなでやったらよいのではないか、障害がなくても車椅子でバスケットボールはできるし、ゴーグルしたらブラインドサッカーができるので、健常者も参加するということです。

スポーツツーリズムとして、渋谷アドベンチャーレースを書きました。渋谷の中には自然やワイルドさもありますので、そこをチームで探索できるようなレースイベントがあつたらよいと思いました。

一番の問題は、スポーツ振興を教育委員会がやっているということです。これは時代おくれです。スポーツ振興を区長部局に移し、しかもスポーツ産業振興課ぐらいの名前でやっていくというのが良いと思います。そういった庁内の機構改革を考えたらどうかと思いました。以上です。

副委員長 私は、競技スポーツの地域密着化の推進、プロチームとの連携という観点から、幾つか提案させて頂きました。

まず、プロチームと連携した生涯スポーツ活動です。関係者に話を伺ったところ、サッカー、ラグビー、バスケットのいずれのリーグ・チームでも、区の1番から13番の施策、すなわち生涯スポーツ活動振興の支援ができるとおっしゃっていました。

例えば、区民が学校施設を利用する時に、プロの選手が行けば、より充実した運動の機会の提供になります。平日の早朝に親子のサッカー教室のようなことをやれば、子供も親も通勤通学前に体を動かし、一緒に楽しめる機会となります。区内の商店街、地区の運動会等からお呼びかけを頂けば、いろいろと支援、貢献ができるというようなお話もありました。商店街と協働で多様な競技スポーツを体験できるスポーツフェスタなどを開催したら非常に盛り上がるのではないのでしょうか。

また、スポーツとアートの融合についてですが、渋谷区はアートのまちでもあるので、スポーツだけに限るのではなく、融合した取り組みもよいと思いました。

次は、スポーツの力を活用したダイバーシティの浸透です。私は、長らくダイバーシティ推進に取り組んでいますが、一番難しいのは、多様性を「理解する・受容する」という一人ひとりのマインドです。日本では、障害者、異文化の方々と交わる機会が多くありません。市民レベルや企業レベルで障害者スポーツ体験をもっと頂くことで、ダイバーシティの理解が進むでしょう。また、渋谷でグローバルスポーツフェスタのようなことをやれば、国際交流にも多世代交流にもなるということです。そこに関わりが出てくるのがスポーツボランティアの育成で、2020のサポート体制にもつながります。体験の機会がとても大事だと思います。

3番目は生涯スポーツ活動振興のための社会連携窓口の設置です。行政の施策を見てみると、それぞれの部署で予算や人材を持っているものの、統合的な取り組みが見えません。もっと区民を巻き込んでいくとよいと思います。例えばスポーツラボを設置し、連携の形を実験的に実践していくことにより、区民、行政、教育機関、企業、プロスポーツチームなどを巻き込んだ効果的で持続可能な活動が見えてくると思います。

委員

私は、日常的な健康、医療の面からアイデアを書かせて頂きました。

まず、誰もが生涯を通じてスポーツに参加できる機会の創出です。学校医として小学生を見ていますが、子供たちの基礎的な体力を増進することは、大人になってからも非常に重要だと考えています。昔に比べて体育の時間が少なくなっていると思いますし、また、昔は放課後にみんなが運動場で遊んでいたのに、今はすぐに塾に行ってしまうので、遊ぶ時間も見つけにくい世の中になっていると感じます。学校医として体力測定の結果などを見ますと、例えば投げる力が落ちています。最近ではキャッチボールをする場所もなくなっていることも背景にあると思います。本来、子供の年代は伸びる時期のはずですが、やらなければ退化している面もあります。そう考えると、体全身を動かす体育の時間を増やすことは子供たちに必要なことであると思います。

成人については、生活習慣病予防の観点から職場や、仕事の前後での運動を推進していきたいと考えています。アンケート結果では、地区体育会のような体制があることや、近くの施設が知られていないために利用されていないという現状があったと思いますので、そのような周知と活用促進、職場等で運動の推進が必要であると思います。

渋谷区には企業がたくさんあります。我々産業医は企業と一体となり身近でやりやすい方法を広めていくことができると考えています。

また、高齢者につきましては、65歳になったら高齢者証とともに、運動やリハビリ、予防等の補助券、無料券を発行して推進するとよいのではと考えています。どこかのまちの施策で、皆さんが集まって成功した例もあるそうですので一案だと思います。

次は、公共空間を活用した運動機能の向上の推進です。全天候型のスポーツ施設はあると思いますが、なかなか一般人が行けるものではないと思います。特に高齢者は、最近のような天候では熱中症を恐れてなかなか外出しません。商業施設に行くのが大変な方もいらっしゃいます。他方で、デパートや商業施設等に入って、涼しい空調の中で歩行して運動している方も少数ながらもいます。運動環境に関して、冬は寒さを防ぎ、夏は暑さを防ぐことにより高齢者でもいつでも歩行・運動できる施設設計をして頂ければと思っています。区内の道路脇に植樹して木陰をつくったり、椅子・ベンチをとところところにおいて休憩所をつくるということも身近ながら大事な配慮だと考えています。

若い人等に対しては、例えば、駅なかに自転車を漕いで発電するといった地産地消エネルギー革命のような取組をやってはどうかと思います。発電に協力すれば渋谷で使えるポイントをインセンティブとして与えれば、若い人も興味が湧くかと思っています。

最後に、見る楽しみから自分も行う、支える楽しみへと導くための環境整備です。見ることから、自分もやりたいにつなげるのは可能と考えます。大きなパブリックビューイングだと行動力のある人以外はなかなか人を集められない、一方で、行きたくても行けないという方もいます。公民館、商業施設、区役所やコンビニなどにパブリックビューイングがあれば、身近なところで観戦ができる。一人で自宅で見るとよりも、感動をみんなと共有できれば楽しさが倍増し、やってみたい、応援・支援したい気持ちにも発展しうると思います。

委員

人が集まる場所や通過する路面のあちこちに、例えば50センチ四方程度の発電器具を置いて、その上を歩くことで発電できるという一石二鳥の装置があったらよいのではないかと考えました。

2つ目は区在住の方に関係することです。渋谷区の11地区に11の地区体育会があります。また、学校施設開放委員会があります。4つの地域スポーツクラブもあります。

これは全部スポーツ関係の組織ですが、それぞれがあまり協力し合っていないというのが現状です。地区体育会はいろいろなイベントを行って地域の皆さんがスポーツを楽しむ役割を果たしていますが、人が入れ替わらないといった問題もあります。地区体育会は、先のオリンピックのレガシーだと勉強させて頂きましたが、次のオリンピックはさきのオリンピックのレガシーが生まれ変わるよいチャンスかと思いましたが、スポーツ関係の3つの組織を一回全部ばらして融合したらどうかと考えました。

委員 具体的な取り組みというよりは発想として3つ挙げさせて頂きました。渋谷区でやる意義、あるいは渋谷区だからやる意味ということを考えました。

1つ目です。渋谷区は非常に多様な国にルーツを持つ方が多く住み、働いているまちです。そういった国のスポーツ、国技と、学校教育とが連携するような取組ができないかと考えました。小学校のみならず中高と、そして体育、現代社会、総合的な学習というような教科横断的な取り組みと、スポーツがうまく連携するとよいと思って、1つ目を挙げました。

2つ目のシブヤクラブについては、難しいことは十分承知していますが、渋谷区立のスポーツチームの提案です。これは区が組織運営をするという発想です。渋谷区で働く人や、大学生等が参画して協働、連携をして運営するような組織があるとよいと考えました。先日、港区のラグビーフェスティバルに行きました。港区の道を全部封鎖してあり、そこにいろいろな出店が出ていて、食べ物があったり、ゲームがあったり、もちろんラグビーの出店があったりというような取組でした。そういった発想もおもしろいと感じたので、挙げました。

3つ目は「ラグビー」と書いていますが、ラグビーに限りません。特別支援、通級に通う児童、生徒と交わる機会という趣旨で挙げました。今、障害がある方のスポーツが非常に注目されています。目に見える障害のある方の場合は非常にサポートしやすいし、声もかけやすいですが、特別支援や通級に通っているお子さんたちの間で、目に見えない障害のある方が増えています。東京都では小学校のときから特別支援学校に通いますから、一般の子どもたちはそのような子と交わらずに大きくなっていきます。社会に出たとき、または大学に行ったときに初めて会って、どのように接してよいかわからないということが起きます。そういった発想から「特別支援学校、通級に通う」という文言を入れました。スポーツに関しては、今、小学校でフェニックスという女子ラグビーチームが練習をしていますので、近くの学校でスポーツを通じて、特別支援、通級に通う児童、生徒と交わる機会が持てるというよいことで書かせて頂きました。

委員 私は、学校現場をバックグラウンドに持っておりますので、子供たちに問いかけをしました。難しく書いてあるスポーツ推進計画の方向性から5つの視点を上げて、子供たちに、これを見て自由に書いてごらんと問いかけをしました。

子供が書いていることですが、意外に本質を突いている部分もあります。例えば、ポイント出す、割引する、ただにする等の意見はとてもわかりやすい。先進国では、グーグルの中のスポーツ施設を含めてみんなただです。ただだから気軽に手にしてみる、試してみる、そうしたモチベーションが上がってきたりするので、子供たちの、ただにしてくれ、割引券を出してくれ、ポイント出してくれという声はあながち無視できないと私は思っています。

子供たちの体力低下は大変深刻な問題です。スポーツ推進を含め、子供のときから体力向上について常に頭に入れていかないといけないと思います。特に握力、ボール投げです。ボール投げが日常生活に必要なのかわかりませんが、握力は悲劇的な状況です。体力の到達段階で東京都は47都道府県中47番目ですので、この推進計画をスタートさせるにあたって、常に念頭においてやっていかなければならないと思います。

イベントのアイデアがたくさん出ていたと思いますが、イベントは往々にして打ち上げ花火的になってしまっていて、持続的ではない。場合によっては日常生活にあまりフィットしないメニューもあると私は考えます。子供たちはイベントに行きますが、日常的で

はない。いろいろなイベントがあったからといって子供の握力やボール投げの数値は上がりません。この骨子の6つ目にあたりますが、本校では地区体育会の運動会を行っています。お互いギブ・アンド・テークではあります。地域と一緒に運動会がやれる例は他にあまりなくて、私も初めは違和感がありました。ただ、やってみると、とてもよいシーンが展開されます。それを一つの核にしていくのは良いと考えます。NPOや社会教育団体が学校を助けて、先生たちが全部やることにならないように考えて、計画の中に入れて頂けるとありがたいと思います。

委員長 皆さん、どうもありがとうございました。

今日、出た意見の他によいアイデアをお持ちの方、あるいは今、発表されなかった人で何か意見がある方はいらっしゃいますか。

副委員長 働く人の健康についてお話がありました。健康経営に力を入れる企業が増えていますので、平日の朝や夜の学校施設やスポーツ施設の活用等、企業との連携ということも考えられると思いました。また、ウェアブル端末などを提供してくれる企業もあると思うので、渋谷区内の企業とのタイアップで、最新機器を使った福利厚生を展開ということも「渋谷らしい」と思います。

委員 新しいパブリックビューイングについて、具体的にはどういうことが考えられるでしょうか。例えば3D眼鏡、ゴーグル等をつけて疑似体験するメニューが開発されたり、8Kテレビなどがあって、いろいろなケースが考えられますが、具体的にはどのようなことが考えられますか。

委員 おっしゃる通り、ウェアブル等を使って少人数でやることも考えられます。また、聞いた話では、あまり大きくない360度テレビのようなものを設置すると、10名ぐらいが集まって臨場感を持って見ていくという例もあります。もう一つとして、ホログラム、すなわち、実際に選手が中に入っているように見せる放映技術もかなり進んでいます。このようなものを活用すれば小さなスペースで新しいパブリックビューイングができるのではないかと考えています。

前に、区長と話をしたとき、渋谷は広場の文化ではなくてストリートの文化だと言っておられました。ストリートという細長い空間を使いながらできることを考えると、例えば100メートルの道路の場合、そこでボルトが実際に走っているようにホログラムで見えるようにするというようなことをすれば、これまでのように広場で大きなスクリーンで行うパブリックビューイングとは違った新しいものになる。しかも、それが渋谷区のIT企業の方の技術を活用しながらできるとすばらしい。希望的観測ですが、日本から、渋谷区から発信できるような新しい取組を持っています。

委員 もう一つ質問ですが、代々木公園は、どの程度いろいろなことができるのでしょうか。委員がお話ししていたように照明を設置したり、あるいは新しいメニューができる可能性等もあるのでしょうか。

委員長 私が知る限りで申しますと、都市公園法による国の規制があり、公園の中につくってよいものにつくれないものがあります。つくってよいもののほとんどは、建蔽率、面積で公園面積の何%までは建屋にできるというような法律です。都合が悪いことに、東京都が公園条例をつくっており、いろいろな規制をしています。使える時間帯、休業日等が決まっています。ただし、法律や条例は人が決めたことだから変えればよいのです。できないのではなくて、やればよいので、小池知事があれだけ都民ファーストって言っているのだから、渋谷区民の皆さんからもどんどん声を上げて頂いて、新しいものに変えていったらよいと思います。今、委員がおっしゃったように、権限が属人的になっていて、その人その人によって解釈が変わったりするような問題もあります。代々木公園に限らず日本中の公園に昭和の時代錯誤的なものがあります。ただ、アメリカのパークマネジメントという概念が少しずつ入ってきています。公園はきちっとマネジメントするものだという考えをまず渋谷区から挙げて東京都にやって頂くようにするか、また、交渉して管理運営を渋谷区が受託するようにすれば変わっていくと思います。

委員 使えるスペースがどこにあるかという話に触発されて思ったのですが、屋上を利用できるのではないかと思います。

屋上でフットサルをやる例はあると思いますので、屋上の限られたスペースの中で何かの運動をやる場をつくる。屋上は大体民間の管理なので、民間が許可を出せばできることだと思います。民間に協力してもらいながら、屋上を有効利用してできるスポーツがないかと思いました。

委員長 屋上に土俵を置いてもよい。

委員 屋上でする空中相撲みたいな展開ですね。

委員長 ほかにいかがでしょうか。

委員 夢はいっぱいあります。でも現実がもう決まっていますので、その範囲でやらないといけないわけです。地区体についていろいろなことが書いてありますが、基本的にスポーツをするためには場所がなければいけません。その場所がないのです。体育会のことも書いてありますが、場所をどうやって確保するかとなると、はっきり言わせて学校の校庭を借りるしかできないのが現実です。代々木公園は東京都の持ち物ですから、渋谷区からいくら都に頑張ってもダメですというのが現実です。

渋谷区に公園はありますが、公園を使いたいというのが夢ですが、公園を使うとご近所様に怒られてダメになる。渋谷区には防災公園が何か所かできているらしいのですが、そうすると公園がスポーツから、防災に移行していくのが現実になってしまい、スポーツ推進と言ってもできないのが現実だと僕は思っています。皆さんの発想はよいのですが、場所がなければ何もできないのではないかと感じます。また、学校では部活動があるのが当たり前で、土曜日でも日曜日でも部活動をしています。そうすると基本的に私たちがお借りできる時間がないのです。学校は基本的には子供たちの場ですから、それはしかたない。そのため、スポーツをやりたい人はスポーツジムに行く、少年だったらクラブチームに入るとなります。

今の渋谷区では、小学生の半分以上が私立です。区立へ行く子が本当に少ないです。親が望んでいるのはスポーツではなく勉強です。これが現実だと思います。スポーツ推進と言っても、その魅力を感じられていないのが今の渋谷区です。

また、先ほども申しましたが、公園を使用するためには、近隣の住民の了解を得る必要がありますが、そこを切り開くのが大変です。うちの町会に関わる話ですが、東京都水道局が穴を掘って埋めています。水がたまってしまうので、その対応のために東京都は渋谷区の公園を借りて、渋谷区の公園を既に3分の2以上壊しています。公園に戻すためには、どのような公園にしてほしいかという話になります。私たちはキャッチボール等ができるようにしたいと思っています。そのためには地域の人を呼んで、その許可をもらうことになります。「この時間でご理解頂けませんか」とお願いして、許可を得るわけです。鍵は、夜あけると若い子が入ってしまうので、施錠管理等についても決める必要があります。

委員長 では、役所の方もいかがですか。

委員 健康推進部では、日常的な運動という話をしています。スポーツをやるというのではなくて運動をやりましょうという話になります。ここに先生がいらっしゃいますが、先生は、1キロぐらいなら車やバスを使わずに歩いていこうとお話しされると思います。ただ歩くよりも少し早目に歩くというように、日常生活の中でできるだけ体を動かそうというのが趣旨となります。

私は、暑がりなので夏はクールビズで、足はスニーカーを愛用しています。革靴で歩いていると、だらだらと歩いてしまうのですが、スニーカーだとしっかり歩けるので、まず足元から意識してしっかりと歩けるようにしています。このように日常生活の中でできるだけ体を動かすリズムをつくっていきこうというのが私たちの関心です。この場合、公園も何も要らずにできるので、今、渋谷区内のウォーキングマップを作成しています。歩くたびにマップを改善しながら、よいウォーキングルートをつくって、小走りしながら

らやってみませんかということをお勧めしているところです。

委員長 ありがとうございます。他の委員はいかがですか。

委員 皆様からいろいろとご意見を頂いたので、我々としてはこれを踏まえてうまく計画に反映していきたいと考えています。例えば、今、公園に関してご意見が出ましたが、そのアイデアについてやりとりをしながら検討すれば、可能性もあるというような思いを持ちながらお話を聞いておりました。貴重なヒントを幾つか頂いていると思っております。

現場では実際にさまざまな事業を行っておりますと、ご意見を拝聴していて現実的にはできないかなというものもあると思うのですが、今は難しくても、社会環境が変われば可能になっていく部分もあると思いますので、委員長がおっしゃったように、実現性ということにあまりこだわらずにご意見をまず頂いたところです。必ずしも実現できるわけではないにしても、それがヒントになって、この計画が新しい展開につながるものになっていけばと思っています。さらに皆様のアイデアを頂ければと思います。

委員長 ほか、いかがでしょうか。

委員 先ほど渋谷区のウォーキングマップというお話があったのですが、最近は、いろいろアプリとか地図で見ながら歩いたりするというのがあるかと思うのですが、結構地図を見ながら歩くというのは割と煩わしかったりするものです。そのような中で、例えば、今、絵画展に行くと、ガイドがあります。この絵を見たら、この1番目の絵はこういう歴史、いろいろな背景を説明してくれるということで、きょうは、例えば5キロの代々木公園コースを回るということで、その場所に行ったら、その場所の歴史的な背景だとか、この坂の何かまつわる話だとかそういったものを知ることがあったりすると、ウォーキングもさらに楽しくなるのかなと思います。

自分では、私は、いろいろな場所に行ってマラソン大会等で走ったりするのですが、その歴史的な背景とか全然わからず、ここはどういったところなのかな、もちろん自分で調べればわかると思うのですが、自分で実際に走って行って、できたら連動しているアプリみたいな感じで、その場所に自分が行ったら、その場所をいろいろ説明してくれるような観光を兼ねて歩けるアプリみたいなものがあると、よいのかなと思います。

委員長 ありがとうございます。

ここで思いつきなのですが、今やっている事業一覧を送って頂けないでしょうか。スクラップ・アンド・ビルドをやらないと、今あるものにどんどん事業を足していくとますます忙しくなって、もう働き方改革でもっとよりよくやろうというのに、お金の問題もそうなのですが、マンパワーとして足りない。

僕らなりの視点で、こういうものは歴史的な役割が終わっているのではないとか、もうこれはこういうものに変えたほうがよいのではないのとか、これはこうしたほうがよいのではないとか、私たちなりにそれぞれ評価をしてみると。要は、もうやめたほうがよいというのを思い切って僕らで少し出してみると。丸をつけたり、バツをつけたり、簡単な作業でよいと思いますので、そのようなものもさせて頂いて。そうじゃないと、新しいものが入り込む余地がないのです。

どうでしょうか、そのような作業やってもよいですか。

委員 ぜひ。既に区はこういうことをやっているのだ、でもこういうところは足りないよねという、そういう計画というレベルだけじゃなくて、日常的な事業のあり方についても参考にもなりますので、今、委員長が言っていたようなことをぜひお願いできればと思います。

委員長 これはもう思い切ってばっさり、それぞれの委員の皆さんのご見識で評価をして頂ければというふうに思います。

(2) 今後の進め方について

委員長 では、議題1をとりあえずこれで終わりにして、次に、議題の2です、今後の進め方について、事務局からお願い致します。

事務局 (資料2にて今後の進め方について説明)

委員長 何かほかに補足ありますか。

委員 先ほど委員長がスクラップ・アンド・ビルドとお話を頂いて、私は大変うれしくて、スポーツ振興もそうなのですが、例えば渋谷区の中学生の連合陸上大会というのを長らくやっているわけではありますが、それは旧国立競技場で渋谷8校の全生徒が参加して選手だけがフィールドでもって競技をするだけなのですが、それはそれでよいのですが、そのように工事が入って連合陸上大会はそこで一体どうなるのかということが大分議論になったのですが、結果的には駒沢競技場まで行って今やっているわけです。

ただ、あれがいつも9月の第4週の金曜日に設定されるがために、そのための準備であるとか練習であるとか、また、年間の行事であるとかということが大変大きく制約を受けます。かつ冬の一番寒いときに、マラソンって冬にやるのでしょうか、しぶやニュー駅伝というのが代々木公園です。かつてはそんなに人数はいなかったのですが、あつという間に人数が多くなりまして、今、参加制限すらやられるようになって、1学校で10チーム以上出したりするわけです。小さな学校は全校生徒参加とかそのような状況。東京都全般でいうと、東京駅伝なのですが、第1回目のオリンピック招致の機運醸成が本来の趣旨でありましたけれども、あれは大変な金と大変な労力がかかっています。

ですから何かを切つていかないと、せっかくこのスポーツ推進計画でいろいろな各団体の方々からユニークな、また、建設的なアイデアを頂いて、結果的にそのようなものは、今まで既成のものがあるからできませんよと。部長が言って頂いて、そういうことをまた勘案して頂けるというさっきお言葉をいただいたのは私は大変力強く、この後、委員長、副委員長、事務局で中間まとめの作業をして頂くということについて、ぜひ、何かを打ち上げるためには、何かは切らなきゃならない、そこだけのご留意頂きたいなと思います。以上です。

委員長 ぜひ継続すべきというものと、もうよいのではないのかなというもの、はっきりとわかるように、もうそれぞれの方の、それで、丸が多いからバツが多いからということではなくて、それを参考にしながら役所の中でご検討頂くということにしたいと思いますので。

ほか、いかがでしょうか。

委員 先ほど現状の厳しさや場所がないというお話をされましたが、オリンピックが2020年にあるというのは非常に僕は大きなポイントだと思います。これまで変わらなかったことが一気に変えられるチャンスがオリンピックというのはあると思うのです。ロンドンでは、あれほど成熟したまちで、そしてある程度、運動量、スポーツをする人口が減ってきた中で、ロンドンもオリンピックによってスポーツの意識あるいは健康の意識というのを劇的に変えて、スポーツをする国民が一気に増えてきたと。オリンピックというものは、一つ、それまで変わらなかったことが大きく変わる起爆剤になるというのは間違いないと思いますし、逆に、2020年、だからそこで変えることができなかつたら、多分もう何十年かは変わることがないというぐらいの一つのきっかけなのですよね。

ですから、その2020年に向かって渋谷を大きく変えようという、これまでの考え方よりも、それを覆すぐらいの変えるという気持ちですが、これは役所の皆さんも、日ごろ、頭の中で考えていく中で、これはできる、これはできないだろうということはもう明らかにわかると思うのですが、それを超えていく力が多分2020年というもので変わるとき、それが唯一にして最後のチャンスであるということを考えてほしいなというふうに思います。

実際、中学生のアンケートとかを見ていると、日ごろにやってみたいとか変えてほしいとか中学生がこれだけの発想を持っている中で、それで何も変わらないということになるのではなくて、この中学生たちが思っていることの1つでも2つでも実現するような、そういうものを見つける機会が2020年じゃないかなというふうに思います。劇的に変えることは、あるいは劇的なものを持つてくるということがありますし、スポーツをしなくなった一番大きなものは、日常からスポーツがだんだん隔離していったことなのです。先ほど何人かのお話がありましたが、日常の中にどう溶け込んでいくのか、あるいは1年というスパンの中でどう日常化していくのか、あるいはイベント化していくのか、お祭り化していくのか、そういうことを考えていく機会じゃないかなというふうに思います。

委員長 ありがとうございます。

今話を聞いて、資料2の我々策定委員会、真ん中の列なのですが、11月、12月があいています。パブリックコメントの最中ではあるのですが、例えば委員の力をかりて渋谷区の中学生たちを集めて、何かフォーラムみたいなのをやって、若い人の声を聞いて集めてみる。大人の偉い人たちがこういう会議室でやっているだけじゃなくて、そんな何かムーブメントというか、そういうのがあってもよいのかなということを思いましたので、事務局でも考えてみてください。

それでは、これもちまして第2回渋谷区スポーツ推進計画策定委員会を終了したいと思います。どうもご協力ありがとうございました。